

ですから、海外移動する子どものケアは家庭が主導権をもって対処するのだと強く意識して下さい。学校にお任せすればなにかもしてもらえという時代ではないのです。黙っていても、誰もあなたのお子さんのことは知らないのです。親であるあなたが賢く動きましょ。家庭・学校・塾の三者の力を上手に使って子どもの適応を進めていくのです。当然ながら学校との位置取なども考えるべきです。良し悪しは別として、異なる学校文化ですから、課題解決にしても日本のスタイルがあります。ご帰国後は早い段階で頭を切り替えて下さい。

誌面の都合上学校と家庭のコミュニケーションの取り方は割愛します。誉められる事の少ない国内の学校文化の中では萎縮や自信喪失してしまう子どもがいます。学校文化の差も家庭で克服することはできません。こどもの生活をみつめて誉めてあげたいです。そちらで先生が誉めて下さったことを親がすればいいのです。国内では、誉めるより、できない部分の克服のために指摘や注意をします。どちらの文化も正しいのですが、子どもが迷う点でもあります。このような些細なことを親は気付いていきましょう。

また、意識変換ではさらに「依存性からの脱却」も目指して下さい。決断は自分です。私が意識変換を説くのは、それが変化に対して極めて内的（主観的）要因ですから、変換が容易だからです。残念ながら社会やシステムはなかなか変換しません。厳しくなった帰国生をとりまく環境に対応するには柔軟性を持つ皆様がまず反応して下さい。

公立では少し特殊ですが、兵庫県立芦屋国際中等教育学校などは注目してよい学校です。帰国生 30 名・外国人 30 名・一般生徒 20 名の募集で、前期課程は公立の中学校、後期課程は単位制の県立高校に相当します。今年卒業生を輩出します。帰国生に対する理解の高い学校ですが、名称の『国際』に惑わされず、あくまでも日本的な学校文化を持つ学校である点をご理解下さい。

公立高校について

一般に「帰国受入＝文系進学」とされがちですが、兵庫県立国際高校、大阪府立の住吉高校、千里高校、泉北高校は、理系進学の道が開かれています。ここ数年の帰国生受入の大きな変化です。長年の受入実績を持つ神戸市立葺合高校の国際科の進路は文系に限定されます。高校段階での英語圏からの帰国生は英語で考えて優れた表現ができたとしても、あくまでも国内では「英語」という一つの教科の成績でしか評価されない。全体の中の一部が優れているとしか見られないと云うことへの複雑な思いがあるようです。前段の小中学生とは異なりますが、この年代でも心の支えが必要ですから、よく励まして下さい。

公立高校の帰国生入試は現地校出身者を対象とした試験内容ですが、入学後の実際の勉強になりますと、高度な日本語運用力やバランスのよい教科勉強など日本人学校出身者向けのように思います。ですから、入学後には相当の自己努力が必要となる事をご注意下さい。

（執筆：2008 年末）

帰国生への学校案内 《関西》 2009 年度版

A4 版 約 500 ページ
2008 年 9 月発行 B5 版 定価 2,800 円

本書の特徴

帰国生を持つ親の視点で
学校や教育関係機関を見つめ、現状を紹介します
「帰国生本人・受入の先生・我々のレポート」と
当事者達の声を多く反映させている学校案内です。

この点は他の案内書とは一線を画する
本誌の独自性です

掲載内容の詳細は、
次のホームページでご覧になれます。
<http://www.ne.jp/asahi/kakehashi/kikoku/>

関西帰国生親の会「かけはし」

1984 年結成の帰国生の母親達によるボランティアグループ
代表：片岡 晶子

658-0016 神戸市東灘区本山中町 3-4-8-101 片岡様方

TEL & FAX 事務局：078-453-7404

<http://www.ne.jp/asahi/kakehashi/kikoku/>
kakehashi@kansai.email.ne.jp



「関東圏以外の教育情報を」という、読者の皆様のご希望にお応えして、片岡様にご寄稿いただきました。

「かけはし」から毎年発行されている「帰国生への学校案内」の取材のために、片岡様とボランティア・メンバーの皆さんは、関西の多くの学校を訪問・取材しておられます。その体験を基にした、海外の保護者にとって大変貴重な情報をまとめていただきました。

実は、この原稿は昨年未だいただいておりましたが、読者以外の皆様にも紹介したく、まもなく開かれる「教育フェア」の特集号である本号まで掲載を見合わせておりました。お詫び申し上げます。「教育フェア」参加者の皆さんに、この情報をお伝えさせていただきます。

片岡様と「かけはし」のメンバーの皆さんに、心から感謝申し上げます。また、今後も引き続き、情報の発信をお願いいたします。